

# 雲南市救急症例の圏域外流出・圏域内完結の変遷： 地方辺縁中小規模病院のセーフティネットとしての ドクターヘリ起動基準変更の影響－第2報

もり わき よし ひろ<sup>1)</sup>      なが せ まさ き<sup>2)</sup>      たか お      さとし<sup>1)</sup>  
森 脇 義 弘<sup>1)</sup>      永 瀬 正 樹<sup>2)</sup>      高 尾      聡<sup>1)</sup>  
あん どう あき とし<sup>1)</sup>      にし      ひで あき<sup>3)</sup>      おお たに      じゅん<sup>1)</sup>  
安 藤 彰 俊<sup>1)</sup>      西      英 明<sup>3)</sup>      大 谷      順<sup>1)</sup>

キーワード：圏域外流出救急症例，市外救急搬送，市外転院搬送，  
島根県ドクターヘリ

## 要 旨

**緒言：**地方辺縁地域の人口非密集地帯(医療過疎地)では，基幹病院も診療能力が限定され，圏域外流出や救急医療サービス(EMS)完結困難を生じ易い。救急医療用回転翼航空機(DH)を用いたEMS(HEMS)利用下での転院搬送は当該病院EMSのセーフティネットとなるが，DHの現場要請応需不能を起こす。当県での2015年の直近病院との距離によるHEMS起動制限の影響を検討した既報で，市内からの全HEMS搬送例の抑制とHEMS利用外転院搬送の増加を報告したが，症例を加え，HEMS起動制限の市外流出への影響を検討した。

**方法：**市内発生陸路救急搬送例に既報のHEMS利用搬送例を加え，HEMS起動制限前後の市外流出例に焦点化，集計した。

**結果：**陸路救急搬送例全体は実数で増加傾向，市外搬送割合は40%台から2016年以降25-32%と減少した。市内からの救急搬送全例中の市外流出割合は40%台から2016年以降29-34%と減少した。

**結論：**当市からの市外流出は，HEMS起動制限後減少傾向で，流出率の悪化はなく，他地域と大差なかった。

## はじめに

Yoshihiro MORIWAKI et al.

1) 雲南市立病院外科

2) 雲南市立病院内科

3) 雲南市立病院整形外科

連絡先：〒699-1221 島根県雲南市大東町飯田96-1

雲南市立病院

医療環境が不十分な地方辺縁地域の人口非密集地帯(以下，医療過疎地)では，圏域内基幹病院でも医師や資機材，患者や住民も含めた医療資源に